

長崎大学大学院 学生員○野見山哲典 長崎大学工学部 正員 岡林 隆敏  
(株)マエダ 正員 鶴崎 壮平

### 1.はじめに

土木の分野では、写真・図面・地図等が多用される。歴史的構造物や各種の公共施設の維持管理においても、文字情報だけでなく、画像の情報が不可欠である。これらの管理は従来、管理台帳によって行われてきたが、近年のパーソナルコンピュータの進歩に伴い、土木分野においても画像情報の電子的な管理・利用が積極的に導入されてきている。昨年、著者らは、Icon Author5.1とdBASE5.0を使用して、今回と同様の画像データベースを制作した。その際、オーサリングソフトとデータベースソフトをリンクさせること、自由度の高いインターフェイスの設計が困難であった。これらの問題を解決するため、本研究では、昨年同様の画像データベースをVisual Basic4.0により、構築することとした。

### 2. 地図情報と橋梁データベース

データベースを構築する際、重要となるのは、検索すべきデータを入力して検索結果を得るまでのインターフェイスの部分である。そのインターフェイスの部分に、地図を使用することで、視覚的な検索が可能なデータベースを構築することができる。検索結果として文字情報と写真を出力する。写真是イメージスキャナから取り込み、PDカートリッジにBMP形式で保存した。

### 3. 地図情報によるインターフェイスの設計

昨年、データベースのインターフェイスの設計には、オーサリングソフトであるIcon Author5.1を、データベースエンジンには、dBASE5.0を使用した。Icon Author5.1は、dBASE5.0とリンクさせるには、変数の取扱い等、種々の問題が生じた。また、地図から検索する場合、ボタンを地図上に埋め込む必要があり、データベースにデータが増加した場合には、プログラムを操作する必要があった。そこでVisual Basic4.0を使用して、画像データベースの構築を行った。Visual Basic4.0はデータベースエンジンを搭載しているため、データベースソフトとリンクさせる必要はない。また、地図からの検索では、座標値を使った検索により、データベースのデータが増加した場合においても、プログラムを操作する必要はない。座標値を使用した検索方法は、図-2に示すように、まず、地図上に座標系を定義する。データベースのユーザーがクリックすると、その点のX,Y座標が与えられる。データベースには、X,Y座標の値を入力しておくことにより、与えられたX,Y座標での検索が可能となる。このことにより、データの蓄積利用が可能なデータベースを構築することができる。

### 4. 九州の歴史的近代橋梁データベース

歴史的な近代橋梁は橋梁の技術史の資料であるだけでなく、橋梁の形態や意匠においても現在でも評価されるべきものであるにもかかわらず、戦後の道路や橋梁の整備により残り少なくなっている。そのためにも、これらの橋梁をデータベース化する必要性がある。今回構築した九州の歴史的近代橋梁データベースの構成

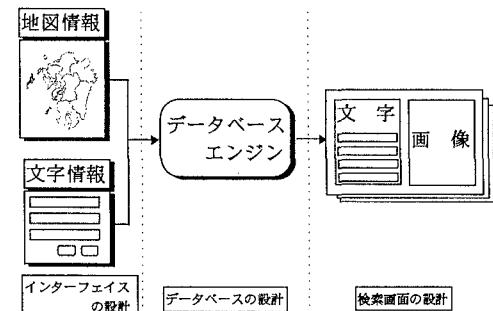


図-1 データベースの構成

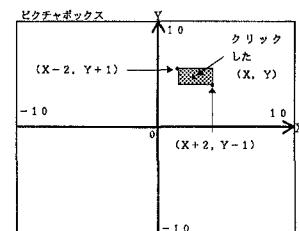


図-2 座標の読み取り

キーワード：画像データベース、橋梁、維持管理、橋梁台帳

連絡先：長崎大学工学部（〒852 長崎市文教町1-14 TEL0958-47-1111（内線2707））

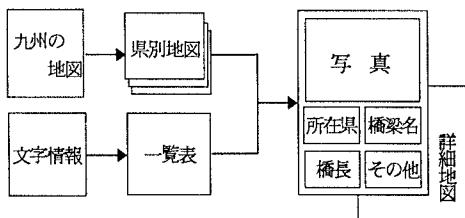


図-3 九州の歴史的近代橋梁の設計概念を図-3 に示す。図-4 で文字情報の 4 つの検索条件を入力し、検索ボタンをクリックすると、図-6 に示す検索画面が得られる。

## 5. 橋梁台帳画像データベース

橋梁台帳は、

橋梁を管理する上で、重要であるにもかかわらず、電子化された管理が

## ほとんどされ

ていない。さらに、写真や図面は別にファイルされ保管されているのが現状である。そこで、ビジュアルで、検索が容易なインターフェイスを作成して、検索結果を表示する橋梁台帳データベースの骨格を構成した。図-7に全体の構成を示す。実際の画面を図-8.9.10に示す。地図からの検索は、座標軸を使った検索である。図-9で橋梁をクリックすると図-10に示す検索画面が得られる。

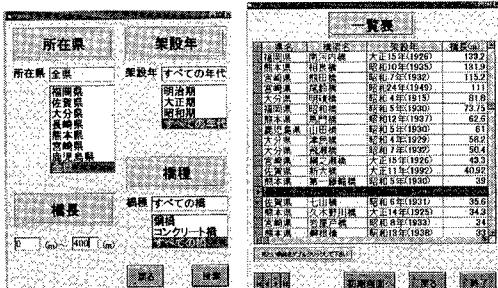


図-4 キーワード

図-5 一覧表

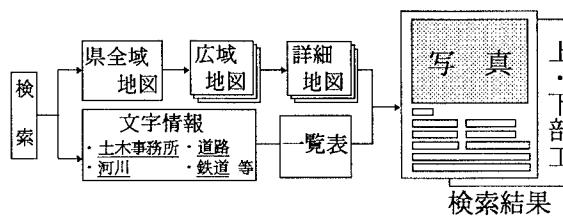


図-7 橋梁台帳画像データベースの構成

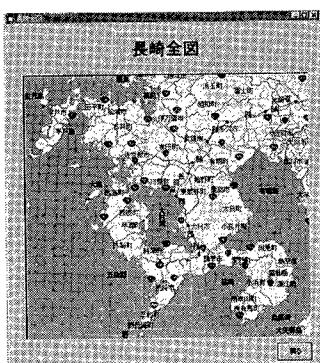


図-8 広域地図



図-9 詳細地図

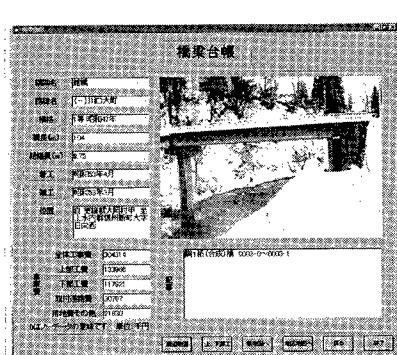


図-10 検索画面

## 6. まとめ

Visual Basic 4.0 を使用して、九州の歴史的近代橋梁データベースと橋梁台帳データベースの骨格を作成した。昨年、著者らは Icon Author 5.1 と dBASE 5.0 を使用して同様のものを作成したが、オーサリングソフトとデータベースソフトをリンクさせることができない、地図からの検索は多少問題があった。しかし、Visual Basic 4.0 で作成すると、短期間でデータベースを構築することができ、地図から検索では、蓄積利用できる座標軸を使った検索方法を開発することができた。

(参考文献) (1) 野見山・岡林・新井: 土木学会西部支部研究発表会 p50~p51 1996年3月

(2) 岡林隆敏・松田浩：九州の歴史的近代橋梁調査 1994年6月